

市民 プレス



SHIMIN PRESS

7月5日 第49号

発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」

編集人 原 昭二

制作・印刷 デジタル工房

FAX 048 (476) 9111

〒353-0004 埼玉県志木市本町 5-19-15

市民の目線で市民が発信する地域情報紙

WEB SHIMIN

<http://shimin.camelianet.com>

CONTENTS

-PAGE 1

志木市の柏町にオープン・埋蔵文化財保管センター

地域情報・志木のまちご案内「ツイッター」は政治・経済の
主役となる？

-PAGE 2,3 志木市の古刹「宝幢寺」
について 安藤茂延

-PAGE 4 Global Mind イスラエル
紀行（その1） 深瀬 克

"twitter"

消防庁は「災害情報タイムライン」を始めると発表。
大規模地震などに備えて、フォロワー（利用者）の
発信を期待。 アカウント名は「@FDMA_JAPAN」

2006年にObvious社（現Twitter社）が開始した"twitter"に、日本国内からアクセスしているユーザーは五百万人余り、全世界では約1億を越えるといわれる。ビル・ゲイツなどの多くの著名人が利用、大企業の広報活動としても使われ、わが国では鳩山前首相などが知られている。ネット選挙運動にツイッターを、そして米欧や韓国などの先行事例に学べ、という声も高まりを見せている。

「ツイッター」による双方向の発信は若い人から広範囲の人々へ、その普及、流行は止まることを知らない。

一方「キーワード検索」すると「キーワードを含んだ投稿」のタイムラインが生成され、「キーワードを含んだ投稿」でつながったグループが自然発生する。同じキーワードを含んだ投稿をすれば、グループに参加することもできる。

tweet, twitter は、直訳すると「鳥がさえずる」、これが「呟く」と訳されたようだ。ブログ・SNS（ソーシャル・ネットワーク）とチャットの間のようなシステムをもつ。各ユーザーは短文（140文字以内）の「つぶやき」を投稿すると、投稿ごとに固有のURLが割り当てられる。

自分専用のサイト「ホーム」には自分の投稿とあらかじめ「フォロー」したユーザーの投稿が時系列順に表示され、「タイムライン」と呼ばれる。メー

「トレンド」により、いまだく投稿されている「キーワード」を知ることができる。トレンドの範囲を国別に、または主要都市別に絞り込む機能もある（日本では未対応）。

双方向性の「ツイッター」を

災害時の情報発進に！

「つぶやき」は 政治・行政の主役になる？

地域情報

第三回志木のまちご案内 「星野半右衛門日記」の世界

去る5月16日、この地域の名主だった星野家の居宅の跡地、志木市本町二丁目の朝日屋原案局（国登録有形文化財）内の会場で開催された（主催：志木のまち案内人の会、後援：志木市教育委員会）。

神山健吉さん（志木市文化財保護審議会会長）の「半右衛門日記発見の経緯」、島田公男さん（志木のまち案内人の会）の「半右衛門日記を楽しく読む」、お一人の講演はほぼ、時間、呼び掛けに応じて参加された方々は、当時の志木のまちの様子、そこで起った事件、例えば家出した娘と追手、舞台は新河岸川の早船、志木から一夜の行程だった浅草の花川戸に向かうドラマなど、講師のお話を聴きつつ、かつての良き時代を想って十分懐かしさを味わった。

埋蔵文化財保管センター

志木市の柏町に完工・・・

旧市民プールの跡地（柏町一丁目20）に建設中だった埋蔵文化財保管施設が完成し、業務が開始された。

発掘調査の後の整理、出土した土器などの保管を目的とした施設であるが、廊下で結ばれた収蔵展示室が設けられ、小学生をはじめ、一般市民の見学も受け付ける。ただし予約制。電話で：048（473）8157へ。



志木市民はいまも、疑いなく水と緑、自然の恵みを十二分に享受している。

遺跡と埋蔵文化財の宝庫・・・志木市の埋蔵文化財は、このセンターの完成によって、集約されることとなった。

ここに移る前は、長い間志木第四小学校に間借りしていたが、当時、調査、整理に当たっていた方々の環境は必ずしも十分なもので無かつたようだ。

その頃から作業の核を担ってきた尾形則敏主査は、今度は新保管センターを統括する立場



楽しく語る
島田さん



志木市の古刹「宝幢寺」について

安藤 茂延

はじめに

今から40年ほど前、東京・中野のアパートに住んでいた私は、近郊で自宅用地を探していた。当時から学園の町として知られていた志木町に居を求め、地元の不動産業者の紹介で町内の土地を見てまわった。その一つに敷島神社脇の宅地を案内され説明を受けた。

その際ふつと土地の奥の方を見ると平べったい形をした石碑を見つけた。業者に説明を求めたところ、「ここは、宝幢寺という寺がもとあったところだ」とのことであつた。その時、どんな寺だろうなあと、知りたくなつた。

それから約30年後。枝垂れ桜を見るため、はじめて同寺を訪れた。風格と落ち着きのある雰囲気、歴史を感じ調べてみたくなつた。

機会のないままさらに10年が過ぎ、平成20年8月、「志木いろは市民大学」で志木市史の研究をすることになり、そのテーマとして古刹「宝幢寺」を取りあげた次第である。

1 宝幢寺の名称の由来

正式には、新義真言宗智山派「地王山地蔵院宝幢寺」というが、宝幢寺の名称の由来については定かではない。

宝幢寺の「幢」の字は「旗」（お寺を飾るもの）の意味である。宝幢寺という寺号は、全国的にみてもそれほど珍しくはないが、そのほとんどが中世に創建されている。

2 創建はいつ頃か

創建の年代は、一説には建武元年（1334）4月と言われているが、本当のところは定かではない。建武元年といえば南北朝時代で、鎌倉幕府が亡び、後醍醐天皇が親政を始め、その後すぐ足利氏が室町幕府を開くという、めまぐるしく変化した時代である。

惜しむらくは、この寺は古い寺でありながら9回とも言われる火災のため、歴史を知る手がかりはほとんど現存していない。

この寺が、近世初期以前の創建と言われている根拠は次による。

（1）川越藩内の朱印寺22ヶ寺のひとつが中世に起源を持つ由緒ある寺であり、宝幢寺もまた朱印寺で、徳川家光が鷹狩りの際に訪れ、休息をとった由緒のある寺であること。

（2）現在、敷島神社に合祀されている下浅間社の御神体である、暦応3年（1340）の逆修の石碑を建てたのが、宝幢寺の住持であると『武蔵野話』に注記されている。

（3）宝幢寺の御本尊「延命地蔵尊」は、約500年前の作であると、京都の仏師によって鑑定されている。また、この地蔵尊の胎内には、中世特有の経木・塔婆が20数枚納められている。

（4）末寺である宗岡の実蔵院と朝霞の富善寺は、創建が元和3年（1617）であり、

本寺である宝幢寺は、当然それ以前である。

（3）文安6年（1449）の紀銘のある板碑が、敷島神社の拝殿に保存されている。

3 誰が創建したのか

宝幢寺は、建武元年（1334）4月に円祐上人が開山したとも、あるいは、現在の寺の西方にあつた墓場の中の地蔵堂を基に、天正年中（1573～1592）に新寺として開山したとも言われているが、開山の時期、そして開山した人、ともに定かではない。

4 元はどこに所在したのか

宝幢寺は、草創以来一貫して現在の地にあつたのではなく、むしろ他の場所にあつたものが、中世末期、ないしは近世初期に現在の地に移つて来たものと思われる節がある。

その根拠は、

（1）柏の城落城後、城主大石信濃守の子息大石四郎の屋敷跡に建てられたと古文書にある。

（2）宝幢寺の所有地となつた田畑（8反7畝）が、現在の敷島神社付近にあつた。30～40年前までは時折、境内から人骨が出土した。

（3）承海が逆修の碑を建てた場所が、敷島神社境内であるが、承海が宝幢寺の住持だとすると、寺の境内または近くに建てるのが自然である。

（4）『館村旧記』によると、現在の宝幢寺の西側の畑は、以前から村中の墓地で、そこに地蔵堂があつた。後に、天正年中（1573～1592）になつて祐円和尚が、その地蔵堂を題として、今の宝幢寺を新寺に開基したのである。

（5）『館村旧記』によると、新寺として開山したとも言われているが、開山の時期、そして開山した人、ともに定かではない。

5 宗派および総本山

宝幢寺の宗派は、新義真言宗智山派「地王山地蔵院宝幢寺」という。

江戸時代には、醍醐三寶院を本山として、江戸愛宕町の真福寺のもとにあつたが、明治27年に京都智積院を本山とする新義真言宗智山派に転じた。

京都・醍醐寺は、明治維新後、新政府の宗教政策により、荘園を取り上げられ困窮していた。当時智積院は、僧侶が学問をする寺として全国から多くの学徒が集まり、経済力があつたので、醍醐寺の末寺を譲り受けた。

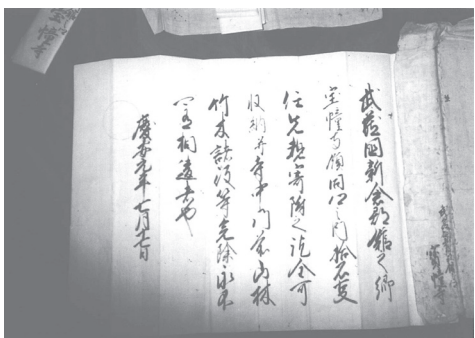
智積院には、現在も正月には全国から多くの僧侶が集まり、大変な賑わいである。また、修行も厳しく、声が出なくなるまで読経を続けるそうである。

関東付近で、宗派を変えた寺としては、芝増上寺があり、明徳4年（1393）に真言宗から浄土宗に転じた。また、千葉小湊の清澄寺はもとも真言宗であるが日蓮宗に改宗している。

宝幢寺は前後9回、回禄の災に遭つたという説があるが、実際に9回火災を出しているかは確かではない。かなりの回数に及んで



宝幢寺本堂



三代将軍家光から賜った朱印状の写し(宝幢寺蔵)

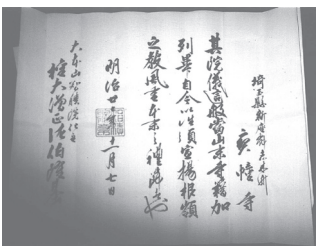
武蔵国 新座郡 館之郷	宝幢寺 領 同郷之内 拾石事
任先規 寄附之託 全可	任先規 寄附之託 全可
収納並 寺中門前 山林	竹木 諸役等 免除 永不可有相違者也
慶安元年七月十七日	



真言宗智山派総本山

智積院(京都)

総本山智積院から宝幢寺宛の末寺籍加列状(宝幢寺蔵)



6 特筆すべき歴史事実

（1）将軍家光から御朱印状を賜る

宝幢寺の歴史の中でまず特筆すべきは、将軍家光から御朱印状を賜つたことである。

家光が鷹狩りの際休息したのが機縁となり、慶安元年（1648）に御朱印地10石を賜り、また、家光が境内が狭い」といって門前に1町歩加増してくれた。その後宝幢寺は、家光以降の各将軍からも御朱印状をもらつており、9代の将軍から与えられた御朱印状は、大切に宝幢寺に保存されている。

しかし残念ながらこの寺は、数度の火災にあい、古い寺でありながら、その古さを示す経文、古記録、什器などは、御本尊を除いて何一つ現存していない。

（2）火災と再建

1 火災

宝幢寺は前後9回、回禄の災に遭つたという説があるが、実際に9回火災を出しているかは確かではない。かなりの回数に及んで

いたことだけは確かだろう。

文化・文政期(1804～1830)に編まれた『新編武蔵国風土記稿』には、「天明6年(1786)に本堂が焼失して以来仮建築に御本尊を安置している」と記されているので、天明6年に焼失したことは明らかである。

また、本堂の奥、御本尊の手前両側に置かれている永代昼夜常夜燈には、天明5年(1785)と文政7年(1824)の2回、本堂が焼失したと記されている。

2 再建

しかし、住職と檀家の強い熱意によって本堂再建のための浄財が集められ、やっと嘉永4年(1851)12月に現存の本堂が再建された。

このとき、再建の普請をおこなったのが、名棟梁・高野万寿五郎注之である。万寿五郎は、2年後に館村氷川神社の社殿を再建しただけでなく、江戸の築地本願寺仏殿、青山の観音堂、赤坂の日枝神社社殿、西新井大師川越の石原御殿の建築をも手掛けたことで知られている名工である。

7 檀家と寺の経営

(1) 檀家はどのくらいあるか
宝幢寺の檀家は約1,000戸を超え、周辺ぎっての大寺である。この寺を菩提寺としている人々のエリアは、旧志木地区の他にも、宗岡地区の一部、朝霞市上内間木、新座市北野、富士見市針ヶ谷といった地域に分布している。

(2) どのような収入で経営されているのか
志木市および周辺の寺の歴史をみると、経済的な事由から断続

的に無住期間を経験した寺があり、柳田国男の『山島民譚集』にも抄録されている。これを現代経済的にも比較的安定していたため、近世初期に中興開山されてより今日まで無住期間は無かったようである。ただし、一時的に他の寺の住職が兼任管理していたことはあった。

住職の中には、宝居弘観(明治10年寂)のように寺子屋を開き、地元子弟の教育に寄与した者もいた。

また、明治7年から同36年まで、志木小学校の校舎として使われていたこともある。

現在、当寺は檀家からのお布施を主な収入源として健全経営を行っている。これは、当寺と檀家との良好な交流関係、また約三万平米(約三千六百坪)の土地や建物など、寺が所有する財産の管理運営がしつかり行われていることによるものと思われる。

8 その他関連事項

御朱印状の他にも宝幢寺にまつわる特記事項はたくさんある。その中から、河童伝説、ほつぺに黒アザのあるお地藏さん伝説、寺紋、釣鐘、枝垂れ桜、本尊地藏菩薩、石仏と筆子塚、襖絵について述べてみたい。

(1) 河童伝説について

宝幢寺にかかわる河童伝説がある。引又川に河童が住んでいて、人や馬に害を加えることがあった。ある日、河童が捕らえられて住民に殺されそうになった。宝幢寺の和尚がそれを見かねて救ってやったそうである。その後、人や馬が被害を受けることは無くなったとのこと。

この説話は、文化6年に編まれた『寓意草』(作者不明)が原典で



嘉永7年(1854)宝幢寺の墓地内から出土した薬師像

(5) 枝垂れ桜について
宝幢寺境内にある枝垂れ桜は、春になると見事な花を咲かせ、特に4月8日の花まつりには地域住民はもとより市外からも観光客が訪れ大変な賑わいである。

(6) 本尊地藏菩薩について
数度の火災にあつて殆どの什器は焼失してしまったが、御本尊は現存している。これは、火災の際、御本尊だけは持つて逃げたものと思われる。台座の部分が御本尊と異なることから明らかだということである。

(7) 石仏と筆子塚について
本堂に向かって左手前に陰刻の六地藏がある。これは明治10年代頃に東海地方で自由民権運動家として名をはせた三上七郎とその兄八十八が亡母の七回忌に当たって、供養のため、明治17年10月に建立したものである。



宝幢寺の住職だった宝居弘観の筆子塚
弘観は寺子屋の師匠としても知られた僧侶である

本堂の左側を少し入った辺りに小さな薬師堂がある。ここに祀られている薬師像は、嘉永7年(1854)閏7月に、この寺の墓地内から出土したもので、『星野半右衛門日記』にも記されているという点で貴重である。

本堂西の奥まつた場所に、住職だった宝居弘観の筆子塚がある。弘観は、寺子屋の師匠としても知られた僧侶だ。墓地内には、弘観



地元出身、小林正路先生が奉納した
宝幢寺客殿の襖絵(境内の白梅をモチーフ)

以外にも寺子屋の師匠だったことを窺わせる人物の数多くの墓がある。特に宮原庄次郎の墓には大勢の筆子の名前が所狭しと刻まれている。

(8) 襖絵について

宝幢寺の襖絵は、地元出身の画家・小林正路先生が境内の樹木をモチーフとして描き、客殿に奉納された大作である。ただし、常時一般公開はされていない。

なお、今回のレポート作成に当たって総本山である京都・智積院を実際に訪ねたが、そこには「楓図」「桜図」「松に秋草図」など、国宝障壁が災禍からまぬがれ現存している。また、名勝庭園もあり、こちらはいつでも公開されているので、京都に行ったらぜひ立ち寄ってみて欲しい。

おわりに

世界に数多くの宗教がある中で、最も多くの日本人が心をゆだねてきた宗教が仏教である。現代人、特に若年層の人達は宗教に対する関心が薄れつつあるのが昨今の傾向である。

30歳前後、40歳前後、50歳以上の男女無差別にそれぞれ10名に對し「自分の家の宗派は何宗か知っているか」と、聞いてみた。

「知らない」と答えた人が、30歳前後は70%、40歳前後は40%、50歳以上が0%ということであつた。若者の中には、「自分にはそんなことは関係ない」「なんでそんなことを聞くんだ」と言わんばかりの顔をしていた者もいた。

我々(高年齢者)の時代は、宗教を通じて人の生き方を教わったものである。最近の若者の事件の多くは、原因を調べるまでもなく宗教心の欠如が大きく起因していると思う。

昔の寺子屋の発想をもう一度思い起こし、地域住民と密着した関係にある寺を活用し、若者のために「知識の詰め込み教育」ばかりではなく「心の教育」をしよう必要がある。

宝幢寺の住職さんも「これから、寺と住民の関係につき、開かれた寺にしていきたい。一方通行でない関係にしたい」と言っておられた。

毎年、寺で写真展を開催し、約70名ほどの人が作品を提出し、たくさんの方が見に来てくれるとのことである。また、除夜の鐘を突くときには、200人ほどの人が集まるとのこと。私が、早朝に宝幢寺を訪れたとき、近所の人達が境内に入り、落ち葉を拾ったり、立ち話をしたりしているのを見かけ、心温まる思いであつた。

今回、いろは市民大学受講を機に、40年来気にかけていた研究ができ満足している。最後に、研究テーマの調査・研究に当たり、特に神山健吉氏、宝幢寺住職さん、志木市郷土資料館の方々、講義いただいた先生方、事務局の方々はお手数をかけました。感謝いた

河童伝説を末永く後世に伝えるため作られた

河童像



「総本山智積院」
案内パンフレット
「宗派に関するアンケート」
安藤調査資料

「武蔵野話」
「館村日記」
「埼玉県寺院全集」
「日本の歴史」
「新編武蔵国風土記稿」
「武蔵国郡村誌」
「埼玉県の民話と伝説」
「將軍家光からの御朱印状」
宝幢寺蔵
「総本山智積院からの末寺
籍加列状」宝幢寺蔵
神山健吉氏ヒアリング
宝幢寺住職ヒアリング
「地主山宝幢寺」
案内パンフレット

イスラエル紀行

深瀬 克

＝その一＝

1. イスラエル航空で

テルアビブへ

イスラエルは遠かった。香港発のイスラエル便はイスラム諸国の上空を回避するため、中国領土を北上、タクラマカン砂漠・カスピ海上空から黒海をくすめ、トルコを南下し、地中海のキプロス島上空を飛んだ末、やつとテルアビブ空港に着陸し、12時間もかかった。成田〜香港間の4時間40分を加えると17時間近いフライトだった。

「テルアビブ」と聞くと、1972年岡本公三たちが起した「日本赤軍テルアビブ空港乱射事件」を思い出す。さらに1991年の湾岸戦争では、イラクがスカッドミサイルを撃ち込んだ所でもあり「大変危険な場所」との印象が強い。外務省の海外安全ホームページでイスラエルを検索すると、全地域が「十分注意してください」または「渡航の延期をお勧めします」と表示されている。『そんな所によく行くね』とほとんどの人から言われたが、「現場・現物を自分の目で見て、肌で感じたい」との強い欲求に駆られ、ついに私はイスラエルの地に立った。

2. 荷物検査・入国審査

遠い国、近い国
のこともっと知
りたい・・・人々
の暮らし・・・



香港空港での荷物検査は今までの馬小屋に泊まり、ここでイエス・キリストが生まれたと新約聖書に書かれている。実際に行ってみると「馬小屋」は「洞窟」であつたことが分かった。今から2000年前の日本は弥生時代で竪穴式住居に住んでいたのだから、家畜や人が洞窟に住んでいたもおかしくない。美化して表現されてきたと言えのう。う。



さて、このキリスト誕生の地ベツレヘムはエルサレムの南10kmほどのところにあるが、現在はパレスチナ自治区となつている。

一方、パスポートにイスラエルのスタンプが押されてしまうとシリア・イランなどのイスラム諸国に入国出来なくなるので、入国審査の時に「ノースタンプ、プリーズ」と言った。係官は不機嫌そうな顔をしながら『何故か？』と質問してきたので、『いろいろな国に旅行したいので』と答えると、別の小さな紙にスタンプしてくれた。敵対国同士の間係に、パスポートを通して巻き込まれてしまう現実を感じさせられた。

3. パレスチナ自治区に入る

聖母マリアと結婚（いいなすけ）のヨセフがベツレヘムにやって来

た時、あいにく宿屋が満員だったので馬小屋に泊まり、ここでイエス・キリストが生まれたと新約聖書に書かれている。実際に行ってみると「馬小屋」は「洞窟」であつたことが分かった。今から2000年前の日本は弥生時代で竪穴式住居に住んでいたのだから、家畜や人が洞窟に住んでいたもおかしくない。美化して表現されてきたと言えのう。う。

4. イスラエル国防軍

イスラエルの軍隊を語るには、まず「マサダ要塞の全滅」について話す必要がある。イエスの時代、パレスチナの地はローマ帝国の属州であつたが、1世紀中頃独立を目指したユダヤ戦争が勃発したため、ローマ帝国は大量の軍を送り込んでエルサレムを陥落させた。しかし不屈のユダヤリット製分離フェンス」は、余人967人が、ヘロデ王が崖上りにも巨大であり異様であつた。コンクリート壁の上に、更にも2mほどの高さで金網が張り廻らされており、日本のどんな刑務所でもこれほどの壁を廻ら



さて、このキリスト誕生の地ベツレヘムはエルサレムの南10kmほどのところにあるが、現在はパレスチナ自治区となつている。



では、ほとんど現実味を持って語られることはないが、長い離散生活とホロコーストを経験し、現在も生命・財産の危機を感じながらの生活を余儀なくされるイスラエル人にとって、徴兵制度は当然のことと受け止められている。

4月18日は「戦没者慰霊の日」になつており、この日は国民全体が喪に服し、正午には1分間の黙祷を行う。現地ガイドも案内を中断し黙祷した。夜のテレビ番組も記念式典などを放映し歌舞音楽を控えていた。翌日は「独立記念日」で、打って変わってお祭り騒ぎとなり、昼間は家族連れが公園などでバーベキューなどを楽しみ、テレビではショー化された記念式典や歌舞音楽が、あふれ、夜はエルサレム市内各地域で打ち上げ花火が上がり、夜空を明るく彩っていた。

イスラエルでは自分たちの国を守り維持することの大切さを国民全体が強く認識しており、日本の現状との乖離をプラス・マイナス両面から感じざるを得なかった。

男子は18歳になると3年間、女子は18歳から2年間兵役に就く義務が課せられている。現在の日本で徴兵制を実施することな

NPO市民フォーラムが編集する

CREATIVE BOOK

「首都圏人」シリーズ第10号「隅田川を遡る」は好評発売中！

本書は空撮のほか多彩なカラー写真を添えて隅田川に架かる橋梁と両岸の賑わいを訪ね、江戸時代からの歴史を語る。

新書判240ページ・フルカラー

定価1260円（税別） 発売・振替社

全国の書店・ネットでお求め下さい。



内容の一部がネットで閲覧できます。検索のキーワードを「首都圏人」と入力するとトップに登場。http://shutoken.canelanet.com/

右は「ニュータイムス」最新号

お知らせ

このたびニュータイムス社のご好意により、同社の情報誌「ニュータイムス」を購読されている読者に、本紙「市民プレス」を同梱・配布して戴くことになりました。お申込みは「ニュータイムス社」へ。

TEL: 048-486-6138

FAX: 048-471-3240

E-mail: newtimes-net@nifty.com

本紙「市民プレス」は

1、4、7、10月
各月5日発行。



特定非営利活動法人

NPO「市民フォーラム」

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行ない、報道によって市民の公共参加を推進します。また市民間のコミュニケーションの増進に努めます。

地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配布しています。読者の「オピニオン」(意見・感想)をお寄せ下さい。

TEL 090 (3048) 5502

編集部 原宛にどうぞ